

# 日本キャリア教育学会

## 令和3年度第1回研究推進委員会企画講習会実施報告

共催 研究推進委員会，中部地区部会，九州・沖縄地区部会

第1回研究推進委員会企画講習会の報告です。

2021年5月23日（日）13:00～16:00、オンライン上で令和3年度第1回研究推進委員会企画講習会を研究推進委員会，中部地区部会，九州・沖縄地区部会の共催で開催しました。今回のテーマは、『『アカデミック研究』のお作法と『学校教育現場の研究』のお作法』で、参加者35名（話題提供者・コーディネーター含）という大盛況の講習会となりました。

研究推進委員会委員長の山田智之（上越教育大学）の挨拶に続き、ゲストの先生方に話題提供をいただきました。話題提供は、まず、白井章詞（長崎大学）先生より、2019年度キャリア教育に対する意識調査より、「高等教育機関における新しい教員像“実践者”に着目して」と題してお話をいただき、学会に求めるものとして、研究者は、「自身の研究を公表する場」「学会の活性化と質的向上」、実践者は、「研究をどのように進めていくのか学ぶ機会」「研究について学べる機会」「研究について相談できる機会と仲間の獲得」であり、研究者と実践者に相違があるとの報告がなされました。つづいて、田村和弘（新潟大学）先生より、学校教育現場の研究のお作法についてお話をいただき、学術論文と異なり、実践に即結びつくことに主眼をおいた研究論文のお作法があるとの報告がなされました。そして、浦上昌則（南山大学）先生より、アカデミック研究のお作法についてのお話をいただき、「アカデミック研究のお作法は、極めて合理的にできていること」「そのため、問答無用でお作法を覚えるとか、経験を積んで納得に至るといふ、我が国の伝統的な理解作法をとらない方よいだろうということ」「なぜそうするのかを、西洋的発想で探る方が理解しやすい」などの提案がありました。その後のトークセッションでは、参加者の現場の先生方や研究者の方とともに『『アカデミック研究』のお作法と『学校教育現場の研究』のお作法』について、活発に意見交換を進めることができました。

最後に副会長の高綱睦美（愛知教育大学）先生から閉会挨拶をいただき、第1回研究推進委員会企画講習会を盛会のうちに終了することができました。

アンケートでは、「お作法について知れたことは大きかったです。」「研究者としてのアイデンティティと実践者としてのアイデンティティの2つの重要性を改めて実感しました。」「実践者と教育者の話題の際、「ああ確かに」と身につまされながら聴いておりました。」「研究とは、『原因原理を明らかにする。そうすれば、予測や制御が可能になるはず』という箇所に、私の教育研究にヒントを与えていただきました。研究の心得はもちろんのこと、多くの原著論文を書かれている方も自分と同じような悩みを持っていたということを知れたことです。」「研究者ではない者にとってはとても分かり易い研修をありがとうございました。これまで疑問に思っていたことや、ここはどうなのだろうと思っていたことについて、他の方も同じように感じておられたことが確認でき安心しました。」等、これからの研究推進委員会企画講習会を企画する上で多くの示唆をいただきました。

皆様のご理解とご協力に深く感謝申し上げます。

研究推進委員会委員長 山田智之